ドラえもん映画で心に残ったセリフ

工学部１回生　のびえもん（ＨＮ）

僕はドラえもんの映画が特に好きなので、何か映画について書きたいと思い、今回はこのような形をとりました。

さっそく、心に残ったセリフを今回は５つ紹介したいと思います。（以下で紹介する５つはランキング順ではありません。）

①　のび太「どうして、いうことを聞かないと･･･すぐ敵になっちゃうの？」

これは「映画ドラえもん　のび太と緑の巨人伝」の中のセリフです。以下あらすじです。

のび太はある日裏山で苗木を見つけ、ドラえもんの道具で自由に動けるようにし、キー坊と名付けた。キー坊と一緒に平和な日々を過ごしていたのび太だが、ある日ふとしことで植物星人が住む緑の星に迷い込んでしまった。その植物星人たちは人間から地球の植物を守るために、地球人を絶滅させようとしていて、そのために、キー坊を使って緑の巨人を復活させてしまった。しかし緑の巨人は暴走して、植物星人たちをも脅かしてしまった。

そしてこの星の姫であるリーレが、のび太に「もはや緑の味方でもない、敵だ！」と言ったことに対してのび太は①のセリフを言ったのです。

この言葉には、まさにのび太の心の強さとやさしさがはっきりと表れていると思います。

なぜ強いと感じるのかというと、いくらキー坊と一緒に生活していたといっても、目の前で全く姿を変えてしまったのを見たら、多少は本当に信じていいのかという疑問が起きてもおかしくないからです。

しかしのび太は、一応疑問形で言ってはいますが、キー坊のことを絶対的に信じていることがうかがえ、またそれを敵であり姫であるリーレにはっきり言っていることから、普段からは想像のつかない心の強さをもっていることがわかります。

そしてこれはのび太のやさしさも象徴しています。何かが少し変わったように見えても、キー坊に対して持っている強い思いやりの心があるからこそ、変わらずキー坊を信じ、実際にキー坊を助けようと頑張ることができたのです。

②　のび太「どっちも本物じゃだめ？」

これは今年の映画「映画ドラえもん　のび太の南極カチコチ大冒険」の中のセリフです。以下あらすじです。

のび太たちは南極で偶然見つけたリングの落とし主を探しに10万年前の南極へ向かった。そこでカーラとヒャッコイ博士に出会い、そのリングがブリザーガを封印するためのものだと知る。ブリザーガに故郷の星を氷づけにされてしまったカーラたちにリングを渡そうとしたが、石コウモリらに奪われてしまう。それを取り返しに行く途中でなんとドラえもんが 2 人出現した。一方は鈴もポケットも氷でできていて、ジャイアンたちの名前も言うことができなかったが、それは偽ドラえもんの仕わざだった。

それでもどちらが偽物かはっきり決められないのび太に、ジャイアンとスネ夫が、ドラえもんを 1 番よく知ってるのび太が決めるように言い、のび太が言ったセリフが②。

これを良いと思うかは賛否両論あるのかもしれませんが、1番のび太にぴったりのセリフだと思いました。見ていたときは一体何と言うかと、少し緊張しましたが、このセリフを聞いてほっとした記憶があります。

このセリフも①のセリフと似ているところがあります。実際のび太も、ドラえもんが2人いると思っているわけではないでしょう。それにたぶん、のび太本人としては、氷の鈴とポケットを持っている方を本物と感じていたのではないかと思います。

しかしどっちが本物かと断言しなかった。これはのび太が、万が一にもドラえもんを失うことはできないと考えたからだと思います。

人によっては、物事はきちんと論理的に話し、優柔不断にはなってはいけないというかもしれませんが、のび太の頭にはドラえもんのため、そして自分のためにも 1 番良い選択をするということしかなかったのでしょう。

そしてこれは、自分にとって大切なものを守り抜く強さ、そしてドラえもんのことを1番に考えるやさしさにあふれていると思います。

①②ともにのび太の心の強さとやさしさについて書きました。普段のび太は何をやってもダメな人と思われていますが、こういう心を持っている人こそ、本当の意味で賢いのだろうと僕は感じます。

③　美代子「あなた魔法が使える！？悪魔と戦える！？ここで二人とも捕まったら、誰が地球を守るのよ！」

これは「映画ドラえもん　のび太の新魔界大冒険～7 人の魔法使い～」の中のセリフ

です。以下あらすじです。

のび太たちはもしもボックスで魔法の世界を作った。なかなか魔法が使えないのび太は、あるきっかけで美代子と出会う。そして美代子の父、満月牧師から魔界星が地球に接近していることを知る。そして魔物たちから地球を守るために、魔界星に出発する。魔界星へ着いたあと、魔王の城にたどり着いたが、魔王の弱点であるはずの攻撃が効かず、吹き飛ばされてしまう。そのあと逃げている途中で、のび太は美代子と出会い、岩陰に隠れたが、悪魔たちに取り囲まれてしまう。

自分がおとりになるという美代子に、のび太は、いくら僕でも女の子を 1 人残して逃げられないと言いました。そしてそれに対して美代子が言ったのが③でした。

このセリフは、言い方もきつく、聞きようによっては厳しく感じられるでしょう。これは、のび太がこの状況では役に立たないと言っているのです。

しかしこのセリフは、のび太への信頼も強く表しています。魔法が使えないのび太に対し、地球を必ず守ってくれるという信頼を寄せているのです。そういう信頼を与えてくれる何かをのび太は持っているのです。

これは僕の予想ですが、何かを守るとき、最後に 1 番大事になるのは心であり、自分が捕まってものび太は絶対に心を折らずに自分を助けに来てくれると、美代子は思っていたのでしょう。

このように互いを信じ、本音を言いながらも支えあえる関係は本当に素晴らしいです。

④　のび太「うん・・・ちょっとね。」

これは「映画ドラえもん　のび太の恐竜 2006」の中のセリフです。以下あらすじです。

恐竜の卵を見つけたのび太はタイムふろしきを使ってその卵を孵し、ピー助と名付ける。この世界にいては危険だと判断したのび太はピー助を白亜紀の日本へ送ろうとしたが、途中で恐竜ハンターに襲われてタイムマシンが故障し、白亜紀の北アメリカに送ってしまっていた。そのことに気づき再び白亜紀へ向かったが、タイムマシンの故障で、日本にタイムマシンを運ばないと現代に帰れなくなったことをドラえもんがみんなに伝える。そしてそのあといろいろ（恐竜に襲われたり、恐竜ハンターに追いかけられたり、恐竜ハンターがピー助と引き換えにのび太たちを日本へ送ってくれると言って誘惑し、仲間の間で口論になったりと本当にいろいろ）あったが、最後なんとか

日本へたどり着き、ピー助と涙を流して別れたあと現代に戻った。

そして、のび太のママが 5 人がのび太の部屋にいるのを見て、みんなで何していたのかを聞き、のび太が言ったのが④でした。

これは①～③と違い、セリフの内容に感動したというのとは違いますが、なぜか心惹かれました。

こんなにも命がけの冒険をして、仲間たちともいろいろありながらも絆を深め、本当だったら言うこともたくさんあるでしょう。その状況で、この一言ですべての思いを表すことで、なんというか・・・これまでの冒険が走馬灯のように思い出され、一言が非常に深いものとして感じられたのだろうと思います。

そしてすぐにエンディングの歌へと向かい、映画のラストとしては非常に理想的なものでした。一言の大切さというのをとても強く感じました。

⑤　ピッポ「違う！ぼくは、ゴミなんかにならなーい！」

これは「映画ドラえもん　新・のび太と鉄人兵団～はばたけ　天使たち～」の中のセリフです。以下あらすじです。

のび太は北極で謎の青いボールを見つけ、家へ持ち帰ったが、それはどうやら巨大ロボットのパーツを送り届けてくれるものだとわかった。さっそく組み立てたが、ジュド（巨大ロボットの名前は 2 通りあるが、ここではジュドで統一）の頭脳にあたる青いボールを組み込んでいず、ドラえもんの道具を使って動かしていた（人々の迷惑にならないよう、人がいない鏡面世界を作り、その中で遊んでいた）。しかしあるときジュドがおそろしいパワーを秘めていることがわかり、鏡面世界に隠し、秘密にすることになった。しかし、ジュドの持ち主だという謎の少女リルルが現れ、のび太は鏡面世界への入り口であるおざしき釣り堀とジュドを渡してしまった。しかし実はリルルはロボットであり、ロボットの惑星メカトピアのスパイとして、地球人を奴隷としてとらえる計画を進めていた。しかし、大事故が起こり、リルルもジュドも鏡面世界に閉じ込められてしまった。それでも、ロボット軍の進軍は止まらなかった。それを食い止めるため、ジュドの頭脳を味方につけようとして、頭脳を、ドラえもんの道具で親しみやすい形に変え、ピッポが誕生した。ピッポはのび太たちをだまし、リルルを助けに鏡面世界にやってきた。しかしそこでピッポはロボットに襲われ（形状が変わったため）のび太に助けられた。そのお返しをするために、ピッポは自分の本体であるジュドのところに向かう。

そこではジュドを掘り出せと命令を受けているロボットたちがいましたが、その中には動かないジュドをゴミ箱行きにしようとしている者たちがいました。そこで、あるロボットが、こいつはゴミだ、と言ったことに対してピッポは⑤を言ったのです。

ピッポは労働ロボットとしてひどい扱いを受け、壊れかけたことが前にもありました。それはピッポのせいではなくいわゆる権力によるものでした。そのピッポがこのようなセリフを言ったから、絶対に権力なんかに負けてほしくないといったような感情が生まれたのだと思います。

今の日本では、そんな理由でゴミにされるなんて考えられないかもしれませんが、それが当たり前と考えられている世界で、周りからもゴミだと言われている中、受け身にならず、絶対にそうはならないと言うピッポの強い思いに、心動かされたのです。

これでドラえもん映画で心に残ったセリフの紹介を終わります。ちょっと長くなったかもしれませんが、ドラえもん映画の良さが少しでも伝われば幸いです。